

【不祥事根絶に向けた本校の決意】（行動基準）

- 1 私たちは、子供を守り育てます。
- 2 私たちは、法令を遵守します。
- 3 私たちは、不祥事を許しません。
- 4 私たちは、地域に開かれた学校にします。

不祥事根絶のための行動計画

尾道市立久保小学校

作成責任者 校長 土井 尚美

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不祥事が「いつでも、だれにでも起こりえる」という「自分事」として捉えた行動が十分ではない。</li> <li>○職員の年齢層や教職経験年数が低く、不祥事事例を具体的にイメージできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○服務研修の方法や内容等を見直し、より体験的な研修を実施して研修効果が実感できるようにする。</li> <li>○日常の事案を不祥事事案と照らし合わせながら考え、規範意識（当事者意識）を持たせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○規範意識を常態化するために年度当初に毎月の「標語」考え、全員で唱えながら確認したり、見える化したりする。</li> <li>○研修担当者を教職員で分担し、全員が研修に主体的に関わることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修毎に教員キラキラタイム（振り返り）を実施し、自分の感じたこと等をシートに記入し再確認する。</li> <li>○前年度の反省を生かしながら3月中に年間計画を作成する。</li> </ul>
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時に「報・連・相」のラインから外れ、組織的な動きができていないことがある。</li> <li>○多忙な中でストレスが解消しにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織（チーム）で仕事を進めることができるようにする。</li> <li>○実感を伴うような職務の軽減化や合理化を図る。</li> <li>○教職員同士のコミュニケーションをさらに促進する。</li> <li>○早期退校を学校文化として確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各部・学年で互いの仕事の進捗状況を確認し、特定の者に負担がかからないよう組織（チーム）でサポートする体制をつくる。</li> <li>○予定の見える化により、見通しを持って仕事ができるようにする。</li> <li>○「せっかくやるなら、楽しく！」を意識して仕事を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○月に一回不祥事防止委員会で情報交換を行い、状況を把握する。</li> <li>○学校経営会議において、業務改善に係ることを議題にする。</li> </ul>
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の形骸化</li> <li>○教職員間の相談体制が十分でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知を繰り返し行い、児童・保護者等が相談しやすい体制をつくる。</li> <li>○教職員同士の相談体制の充実を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校だよりや案内プリントを配布し、相談窓口について保護者等に周知するとともに、校舎内全ての教室にポスターを掲示する。</li> <li>○社会人経験の少ない若手職員には、相談担当者（メンター）を決め、早期にかつ継続して相談ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相談窓口、メンター制が機能しているか、面談等を行い確認する。</li> </ul>